

平成 26 年 10 月 31 日

## ベトナム国際学会参加報告書

群馬大学大学院 理工学府  
理工学専攻 電子情報・数理領域  
小林研究室 博士後期課程 1 年  
築地 伸和

### 1. 参加学会

略称：The Joint conference 4S-2014/AVIC2014

正式名称：The 3rd Solid State Systems Symposium – VLSIs and Semiconductor Related Technologies(4S-2014) and The17th International Conference on Analog VLSI Circuits (AVIC2014).

### 2. 開催場所

開催場所：ベトナムホーチミン市の Hotel Majestic Saigon にて開催

(Address: 1 Dong Khoi St., District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam)

### 3. 滞在期間

平成 26 年 10 月 21 日～同年 10 月 24 日

### 4. 報告・感想



上記国際学会に参加するためにベトナム・ホーチミン市に 4 日間滞在した。ベトナムは社会主義共和制国家で首都はハノイである。国土は南北に長く、今回滞在したホーチミンはベトナムの南側に位置し、首都ハノイからは約 1500km 南側に位置している。ベトナム南部の季節は雨季 (5 月～10 月) と乾季 (11 月～4 月) の二季からなり、滞在時は雨季の終わりの時期であった。成田からホーチミンまでは飛行機で約 6 時間かかり、時差は 2 時間である。現地空港はホーチミン市に郊外にあり、名前はタンソニャット国際空港という。現地通貨は VND (ベトナムドン) で 10,000VND $\approx$ 50 円である。物価は大体日本の 1/3~1/4 ほどであった。



今回の学会開催地であり宿泊地でもあるホテルマジェスティックサイゴン。1925 年創業で各国要人も多数宿泊している 5 つ星ホテルで市内中心部に位置する。左の写真はホテルの全景であるが、この写真をとるために道路を横断したが横断歩道や信号はなく、横断するのに躊躇しとても時間がかかった。現地の交通量の多さには非常に驚いた。

学会初日は「半導体発展の歴史と今後」/「ベトナムにおける IC 産業の方向」/「IC 研究と教育」というようなテーマで各専門家による招待講演が行われた。印象的であったのは、現地の国立ベトナム大学 (Vietnam National University) 所属の教授による講演であった。その話によると、ベトナムのホーチミン市は政策として半導体事業に力をいれることを宣言しており、今後の半導体の設計・生産・製品展開・人材の育成にいたるまでの各目標が政策に具体的に盛り込まれているとのことだった。日本でよくある口だけのパフォーマンスでなくかなり本気であることが伝わってきた。本学会がベトナム・ホーチミン市で開かれたことも関連していると思われる。

講演会場入り口では学会スポンサーのポスターが展示されていた。現地の TV 局の取材も入っており、ベトナム国内での本学会の注目度は高いものと思われる。



展示ポスターを取材する現地 TV 局の人



招待講演者・主催者全員での集合写真 (記念撮影)

学会二日目は12セッションに別れて論文採択者による口頭発表が行われた。私の発表タイトルは以下のとおりである。

**Nobukazu Tsukiji**, Yasunori Kobori, Nobukazu Takai, Haruo Kobayashi,

“Single-Inductor Dual-Output DC-DC Converter Design With ZVS-PWM Control”

The 3rd Solid State Systems Symposium-VLSIs and Semiconductor Related Technologies & The 17th International Conference on Analog VLSI Circuits, Ho Chi Minh City, Vietnam (Oct. 22-24, 2014)



口頭発表中の様子（築地）

国際学会での英語によるオーラル発表は今回が初めてだったが、事前に練習したこともあり発表は比較的スムーズに行うことができたように思う。しかし、質疑応答の対応は難しく、スムーズに受け答えできなかった。今後英語をもっと勉強し力をつけ、次の機会には質疑応答もしっかり対応できるようにしたいと思う。

最終日は学会の招待により現地を観光した。ベトナム戦争の戦地となったクチ、サイゴン大聖堂、旧大統領官邸などをめぐり、最後にサイゴン川をクルージングしホーチミン市の町並みを眺めることができた。ベトナムは古くはフランスに統治されていた時代があり、いまでも街の各所に古い西洋風の建物が見受けられた。これらはフレンチコロニアル様式といい、コロニアルとは「植民地の」という意味である。宿泊したホテルやサイゴン大聖堂などはこれらに該当する。また、ベトナム戦争で泥沼のゲリラ戦を繰り広げたことで有名なクチは戦争記念公園として人気の観光スポットになっている。ここでは、ベトナム戦争で使用された地下トンネルやトラップなどが展示されており、アメリカ兵との戦いの様子を知ることができた。

計4日間の滞在であったが、学会発表を通じた研究討論・交流はもちろんのこと、異文化を理解する機会にも恵まれ大変有意義な時間を過ごすことができた。最後に、このような機会を与えて頂いた小林教授に感謝の意を表します。

【観光した場所】



サイゴン大聖堂

【ベトナム料理】



ベトナムコーヒー



ベトナム戦争跡地で射撃体験 (AK47)



フォー



旧大統領官邸



イモとベトナム茶  
(戦時中の食事・クチにて)